

色麻町

清水寺



おとわやまきよみずでら  
音羽山清水寺は、平安時代の初頭、延暦<sup>えんりやく</sup> 17年（西暦798年）に創建<sup>そうけん</sup>されたと伝えられています。

京都に都を置く律令国家の支配に抵抗する「蝦夷<sup>えみし</sup>」を平定するために遣わされた「坂上田村麻呂<sup>さかのうえのたむらまろ</sup>」は、蝦夷平定の最高責任者である征夷大將軍となり、陸奥国に赴きました。その際、京都の清水寺に成功を祈願しており、首尾よく平定がな

ったことでこの地に千手観音と毘沙門天<sup>びしゃもんてん</sup>を安置しました。その後上洛した田村麻呂は、京都清水寺の僧正<sup>そうじょう</sup>を下らせ、この清水寺を開山させたとされます。

時が流れ、自然と朽ち果ててしまいましたが、戦国時代となり、当時宮城県北部を領地としていた「大崎義隆<sup>おおさきよしたか</sup>」が寺の書き上げにより無住寺となっていたことを知り、黒沢村のまんじゅざんさいふくじ<sup>きんりゅうおしょう</sup>万寿山西福寺の金龍和尚に堂宇を再建させました。

